

(共同リリース)

2024年5月30日
日本航空株式会社
日本製紙株式会社

東洋製罐グループホールディングス株式会社

JAL、日本製紙、東罐興業、 「紙コップto紙コップ」の水平リサイクルを実現

～6月1日より、機内で分別回収した紙コップからできた紙コップを期間限定で提供します～

日本航空株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:鳥取 三津子、以下「JAL」)、日本製紙株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:野沢 徹、以下「日本製紙」)、東洋製罐グループホールディングス株式会社の連結子会社である東罐興業株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:笠井 俊哉、以下「東罐興業」)は、機内で分別回収した使用済み飲料用紙コップを新たな紙コップに再生する「紙コップto紙コップ」の水平リサイクルを実現しました。使用済みの紙コップを回収して再資源化し、新たな紙コップに再生させる資源循環は国内初の取り組みです。(2024年5月7日時点 三社調べ)この取り組みにより新たに再生された紙コップ(以下「再生紙コップ」)は、環境月間である6月に羽田発JAL国内線運航便にて提供します。



■背景

JALグループでは、日本製紙グループと共同で、2022年12月より機内サービスで使用した紙コップの分別回収とリサイクルを実施してまいりました。紙コップの回収対象路線は、東京(羽田)=沖縄(那覇)線からスタートし、現在は東京(羽田)=札幌(新千歳)・旭川・福岡・長崎・熊本・鹿児島・沖縄(那覇)線に拡大しています。(エアバスA350-900型機・ボーイング767-300ER型機運航便が対象)※

回収された紙コップはこれまで段ボールなどの紙製品に再生されてきましたが、お客さまにもご協力いただき、JAL機内での紙コップ分別回収の精度が向上したこと、日本製紙富士工場における食品・飲料用紙容器専用リサイクル設備の新設ができたこと、東罐興業の製造技術が進歩したことにより紙コップ水平リサイクルスキームが確立し、このたび「紙コップto紙コップ」の水平リサイクルが実現しました。

<紙コップto紙コップへの水平リサイクルフロー>

1. お客さまの協力のもと、使用済みの紙コップを分別回収

2. 日本製紙グループにて再資源化

3. 東罐興業にて新たな紙コップへと再生



※ 航路上の天候やサービス上の都合により、分別回収を実施しない場合があります。

■概要

提供期間:2024年6月1日(土)~10日間程度

在庫がなくなり次第終了。航路上の天候などの状況により、ご提供ができない場合もございます。

対象路線:東京(羽田発)JAL国内線運航便

仕 様:古紙パルプ配合率25%(古紙パルプの一部に機内で使用された紙コップを含む)
再生紙特有の黒点が紙に混ざる場合がありますが品質には問題ございません。

再生紙コップの提供は期間限定での取り組みとなりますが、豊かな地球を次世代に引き継ぐため、今後も紙コップ分別回収対象路線や再生紙コップの提供路線の拡大検討など、お客さまとともに循環型社会の実現に向けて継続的な取り組みを推進してまいります。

以上